



# 梅林

第105号

令和5年1月31日発行

茨城県更生保護女性連盟



茨城県更生保護女性連盟結成65周年のつどい

## 県連盟65周年にあたり 「ぬけるような青空の広がる秋」



茨城県更生保護女性連盟会長  
緑川紀子

御来賓の方々、関係機関の方々のご臨席を賜り会員の皆様の出席を頂き、令和4年10月3日(月)ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホールにて、“茨城県更生保護女性連盟結成65周年のつどい”を開催する事が出来ました。

コロナ禍の中での開催で、感染症対策には本当に気を使った“つどい”となりました。

記念講演には認定N P O法人「フリースペースたまらば」の理事長西野博之先生のお話を伺いました。非常にご多忙な先生で次の日は静岡県更女連盟60周年記念の講演が予定されていました。

大人社会でも何となく生き辛さを感じる社会情勢の中、人一倍感受性の強い子供たちは真っ向から受け止めてしまう、先生の体験から受け止める生の声を通して、子供たちの想いや個性について解りやすいお話をしてくださいました。

また、アトラクションでは、弦楽カルテット“ミュゼ”的優しい音色に時間が足りなかったとの声もきかれました。

その場その場のお役目、お世話役の会員の皆さん全員で関わられた記念式典でした。感謝です。

まだまだ収束の先も見えないコロナ禍、子供達のマスク生活の長きに弊害が心配され始めています。不登校、引きこもりも多々。関わる大人社会もコミュニケーションに苦しみ、手放して笑い合える日々が待たれます。

今更女として何に向かうか、会員の意が問われる時期かと思われます。

会綱領をよく理解し、地域で会員同士の横の繋がり「楽しくなければ更女ではない」と足元を固めていきたいと思います。

# 茨城県更生保護女性連盟結成65周年のつどい

令和4年10月3日(月)、ザ・ヒロサワ・シティ会館において、多数のご来賓、市町村関係者、更生保護関係者、歴代会長のご列席をいただき盛大に開催いたしました。

第1部は式典で、緑川紀子会長の式辞に続き、ご来賓のご祝辞をいただきました。続いて顕彰では、法務大臣感謝状はじめ多くの会員に感謝状が授与されました。第2部は西野博之様の記念講演と、弦楽カルテットの演奏がありました。

## 記念講演

### 生きづらさを抱えた人の居場所づくり



講師 認定NPO法人  
フリースペースたまりば  
理事長 西野 博之 様

私は、何らかの理由で学校に居場所を見つけにくくなったりした子どもたちに36年前から関わってきました。

最初に「たまりば」というフリースペースを開設し、31年前から「川崎市子どもの権利に関する条例」策定に関わり、具現化を目指した「子ども夢パーク」を作りました。15年間所長を務め、今はアドバイザーです。市や県、国の委員もしています。

今、3年目を迎えた新型コロナ禍の中でマスクが外せない生活が続き、対面する機会が少なくなっています。友だちができない、楽しくない、宿題ができないなどの相談が増えています。

中学生の24人に1人が不登校です。暴力行為は小・中・高校生で1年間に約6万6千件も発生しています。いじめの認知件数は、小・中校で51万件にもなっています。その81.4%が小学生です。

出生数は過去最少の81万人である一方、子どもの自死が増え続け、小・中・高生で1年間に473人もが亡くなっています。

子供を取り巻く環境は、貧困によるネグレクトと完璧を求める過干渉の二極化しています。

先進国の子どもの幸福度調査の結果では、日本子どもの精神的幸福度は38か国中37位です。子どもが生きづらい社会を迎えているのです。

子どもは、助けてと言葉にしないので、SOSに気付くにくいです。子どものSOSをいち早くキャッチできるアンテナが必要です。

子どもたちが起こしている問題行動は、かまって欲しいということの不器用な表現です。問題行動には、いろいろな背景がありますが、聴いてくれる大人の存在を身近に感じることができれば、自分の問題に向き合おうとすることができます。

子どもの嘘に対しては、なんでこんな嘘をつかなければならぬのかという背景に思いを致し、ただ、その子の思いを受け止めようとして聴いてあげることが大事です。

不登校の子は、学校嫌いではなく、行きたいけれど

学校が安全・安心でない、楽しく学べる環境じゃないから行けずに苦しんでいる子たちなのです。感覚過敏、聴覚過敏、強迫神経症、香害などにもなります。学校に行きたくない理由はいろいろなのです。

平成28年に、教育機会確保法ができ、不登校でも、民間のフリースクールやフリースペース、児童館や図書館、子ども食堂などでの勉強も出席扱いになるようになりました。

私たちが運営している「夢パーク」のフリースペースは日本で初めての公設民営のだけで通って来られるフリースペースです。障害を持つどんな子でも利用できます。31年前からずーっと昼食と一緒に作って食べています。おいしい、うれしい、楽しい、ひとりじゃないということは、ものすごい力を持っているのです。

今、経済的貧困が増えています。暮らしがこわれている子どもたちに、就学や就労の意欲がわいてくるでしょうか。地域に、一緒に作って食べる場を作ることが大事です。

発達障害・多動といわれる子が問題視されています。学校の中で、子どもたちは規則正しく、一斉に同じことをきちんと、静かに黙って指示が入る子どもにならなければならない文化が作られました。そして、多動の子が発達障害といわれるようになりました。私たちのDNAにはこの多動性が組み込まれているから生き残れたというのに。

学校不適応児って、失礼な言葉ですよね。一人ひとりのニーズに合わせた学習ができる環境づくりが大事です。いま、この発達障害の理解をしてもらえないために多くの子が犯罪に手を染めたり、いじめの対象にされたりしています。既存の教育では收まりきれない子どもたちに、より柔軟で多様な発想を持った教育をしていかなければなりません。

考え方の異なる人がいます。それは、生きてきた時代・社会、学んできた学校、家族関係、そこで取り入れたものさしが違うからです。ものさしを変えてみたら、受け入れられるのではないかと思います。

子どもは、遊ぶ、学ぶ、つながるという三つの輪の中で育つのです。やってみたいということに挑戦できるという環境を作るということが大切です。

最後に「おとなが幸せじゃないと、子どもだけで幸せにはなれません。おとなが幸せでいる中で子どもは安心して生きることができます」。

まずは大人が幸せになります。

ありがとうございました。終わりります。

#### 結成65周年記念表彰者

文獻卷之三十一

枝子 美子 子子子子  
幸て 童邦久 泰み 弘典 ち  
越井 藤浅谷沼木澤野  
大石 齊湯菅出鈴米高  
立宮間洗栖ら浦い絶  
日常笠 大 陸  
かすみががら浦い絶  
土 つくばみら  
堂

### 水星便携式测温仪

江子愛博子代美信  
子子井黒田中宇留野  
子數ば方宮大陸行常

坂東木村敬子

茨城県保護司会連合会会長感謝状  
那潮城取筑 珠来里手西 鈴篠石荒小 木塚井川堀 玲依朋かヒ 子子子子子子サ江

天城県更生保護女性連盟会長表彰

緑川紀子 県連盟会長

## 加藤雅之 水戸保護観察所長

小池貞 保護司会会长

古田康輔 関東地方更生保護委員会委員長

小野寺俊 茨城県副知事

高橋靖 水戸市長



# 茨城県更生保護女性会会員研修会

令和4年6月29日(水)、ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸において開催されました。

開会行事の後、加藤雅之 水戸保護観察所長の講演があり、続いて討議1として、講演を聴いての感想を話し合いました。午後は、討議2として、・活動の重点目標について・自分の地区会にどのように生かせるかをファシリテーション方式で話し合い、発表しました。水戸保護観察所長の指導講評を得て終了しました。更女活動の原点を見直す有意義な一日となりました。

## 講話

### 更生保護女性会の皆さんに期待すること



講師 水戸保護観察所  
所長 加藤 雅之様

犯罪は地域社会の中で発生します。即刻捜査が行われ、犯人が確定されれば裁判や審判にかかります。その結果、少年院や刑務所へ送致されます。

保護観察付執行猶予もあります。その後、満期釈放や仮釈放・仮退院などにより社会に復帰します。

彼らの立ち直りを促し、再度過ちを繰り返さないようにするために、本人の決意や努力のほかに、彼らに関わる人々の指導や支援、過ちを悔いる人を受け入れ、見守ることが大切です。

保護観察期間中はもちろん、その後も続けて支援することが求められます。更生保護は、国家公務員の保護観察官と、民間篤志家で非常勤の国家公務員とされる保護司との協力により進められています。ほかに、更生保護女性会をはじめとする更生保護ボランティア団体や地域の様々な関係機関・団体が関わっています。その他地域の方々の協力もあります。

#### 更生保護女性会に期待することは、

- ・地域社会の方々の理解を得ること。
- ・本人の立ち直りへの気持ちを促すことなどです。

#### 立ち直りへの支援としては、

- ・社会貢献活動、社会参加活動への協力
- ・更生保護施設への支援協力
- ・刑務所や少年院などへの訪問 など

#### 犯罪予防活動としては

- ・公民館や学校などでのミニ集会や講演会
- ・社会を明るくする運動への協力
- ・健全育成など地域の浄化活動への協力 など

#### 子育て支援活動等として

- ・親子ふれあい教室や子ども食堂、学習支援
- ・子育て相談（ミニ集会、電話相談など）などしかし、「こうあるべし」「これはだめ」というきまりはありません。

最近の犯罪の傾向としては、犯罪認知件数は減少

しているものの、高齢者や障害のある者による事件が増加しています。薬物やギャンブル等への依存や再犯を繰り返す事案が増加しています。地域での受け皿を確保していくことが求められています。

子どもの貧困問題、ヤングケアラーや格差に起因する虐待やいじめがあります。早期に手を差しのべたり、家族のなかに閉じこめられた問題への対処が求められたりしています。

更生保護施設（有光苑、就業支援センター）への支援については、高齢者、障害者、重篤な問題を抱えているなどの事案が増加していることや、新型コロナ禍による受け入れ態勢の問題などがありますが、差し入れや訪問支援は、家族との関係が希薄な利用者にとって貴重な経験になります。

地方再犯防止推進計画の策定を進め、施設を出た後の居場所づくりが求められます。

「ほっとけない運動」の新たな展開を提案したいと思います。皆さんの地域で起きている問題をほっとけないとしながらも、会員の活動の意義が理解されないとマンネリ化します。そこで、

- ・会員同士が情報を共有する
- ・他の地区会と交流し、活動の意義を再確認する
- ・保護司会や更生保護関係機関との連携

更生保護サポートセンターを拠点とする。

連携は地域へつながる。

- ・新たな「ほっとけない」問題にアプローチ
- ・活動が地域のニーズとなっていくこと

「ほっとけない運動」の原点に立ち返りましょう。平成21年度から開始され、平成26年11月には内閣特命大臣表彰を受けました。

問題への気づき→検討チームの立ち上げ→問題を検証し、選択する→問題として外へ訴える→連絡会の開催→問題改善への活動を始める。

ほっとけない活動が始まって13年が経過する。たえず地域社会にアンテナをめぐらし、今の取り組みを育てると共に新たなチャレンジをすること。

茨城の更生保護女性会は素晴らしい活動を展開してきました。さらに、地域を見渡し問題を新たな視点から提案し続ける柔軟な姿勢も大切です。活動の可能性を広げ、活性化を図れば若い会員の獲得にもつながると思います。なにより更生保護女性会の皆さんのが楽しく活動できることが一番です。

皆さんの会の新たな活動の展開に期待します。

## 討議1 所長講話を聞いて

- ・原点に返ることができ、役割について認識した。
- ・地域の実態を把握し、活動を広める。
- ・「ほっとけない運動」が地域に浸透していくような活動が大切。
- ・各種団体との連携、協力の大切さが分かった。
- ・ミニ集会、情報交換会などの重要性が分かった。
- ・更生保護施設への支援の意義が分かった。
- ・会員同士の親睦を深め、楽しく活動する。

## 討議2 今年度の重点目標について

- (1) 更女綱領を心にきざみ実践します。
  - ・更女会活動の目標であり、出発点である。
  - ・関係機関等と連携しながら、青少年の健全育成に思いやりを持って行動する。
  - ・会員一人ひとりが認め合い楽しく、思いやりを持って行動する。
  - ・明るい社会をめざし、誰かのために役立ち、地域の人々の理解が得られることが理想である。
  - ・次世代の興味をひく行事を考える。
- (2) コロナ禍の中で誰ひとり取り残さない地域づくりを実践します。
  - ・会員同士連絡を密にする。
  - ・民生委員、青少年相談員、社会福祉協議会など各種団体と連携し、情報の収集を図る。
  - ・対面を控えた支援活動をする。（物資支援など）
  - ・報告会をして、会員同士深める。
- (3) 会員増強と組織の活性化
  - ・高齢化による退会者増、人口減少で新会員増困難。
  - ・現会員が、生き生きと楽しく活動している姿を見せる。広報活動が必要。
  - ・親子料理教室や昔遊びなどをする。
  - ・イベントなどで更女の存在を知らせ、仲間を作る。



ファシリテーション方式での  
討議の様子

## 日本更生保護女性連盟報告

### 日更女中央研修会に参加して

八千代町更生保護女性会会长 相澤 純子

二日間を振り返ってみると、一日目は「三者連携の更なる推進に向けて」のテーマでパネルディスカッションが行われました。コーディネーターのお話と共に進められていきました。将来的に保護司適任者と更生保護制度が長く維持する為にもBBS活動の活性化、BBS会の力と支援は必要だと思う。これからも保護司会や更生保護女性会を担ってくれる方を開拓していくためにも三者連携は必要であるというお話をしました。二日間のワークショップでは全国から集まった会員との交流ができました。その中で共通の悩みは会員の高齢化です。会員を増やすにはどうしたらよいか等、意見交換しました。

新型コロナの感染拡大が続く中社会の在り方や生活様式の変化により孤独や孤立に悩む人、様々な生きづらさを抱えている人、昨今社会も変わり新たに歩み始めようとしています。更女会も初期の頃とは時代も大きく変化し気持も様変わりしても仕方のない事だと思います。北海道から南は沖縄鹿児島まで全国の方々と短い時間の交流でしたが、まさに一期一会でした。

## 関東地方更生保護女性連盟報告

### 関東地方更生保護女性連盟会員研修会に参加して

水戸更生保護女性会会长 砂押 信子

12月5日さいたま市の関東地方更生保護委員会にて開催、緑川紀子県連会長、木村敬子坂東市会長、岡安君枝猿島地区会長、砂押信子4名で参加致しました。1都10県から約70名がつどい、堀康代関東地方更生保護女性連盟会長、吉田康輔関東地方更生保護委員会委員長の挨拶があり、南元英夫関東地方更生保護委員会事務局長の講話をうけました。

昼食をはさみ、会員が6グループに編成され、討議研修テーマとして「コロナ禍の中で、地域との連携協働活動を進めるために」①今、出来ること。②この先を見つめて。③魅力ある活動とは。

3つのテーマについて自分の考え、気づいたことについて活発な意見交換がありました。

討議終了後、全体協議になり、6グループから協議の内容が発表されその後上遠野俊彦更生保護管理官より講評があり終了となりました。

各県によって活動内容がさまざまですが、更生保護という目的にむかい日々活動をしていることが確認され有意義な研修会でした。参加が出来ましたことに感謝申しあげます。

## 県 北



県連盟会長あいさつ

(東海村更生保護女性会) 吉沼 良子  
県北ブロック研修会

当番地区でもあり、3年ぶりの開催の研修会でもあり、緊張のなか喜びを感じていました。晴天に恵まれた1月12日、山田修東海村長はじめ東海村福祉部長、東地区保護司会会长などご来賓のご臨席のもと、県北ブロック会員45名が参加し、東海村中央公民館で開催されました。コロナ禍で簡略にしながら、加藤雅之水戸保護観察所長の講話をいただきました。

「更生保護女性会に期待すること」と題して、「立ち直る」ということは、人と人との関わりで癒されること。地域の中で話を聞き続けることで、心を開き居場所ができること。立ち直りの糸口になるなどの話が心に残りました。次に「保護施設などへの支援のもつ意味」については、季節の花1本でも、刑務所にはないものなので、心が慰められ立ち直りのきっかけになる。迷惑施設と思われていたのが、更女会員のたびたびの訪問によって、立ち直りを頑張っている施設であると、地域の人々の目が変わっていくのだということなど、素直に心に入ってきました。

最後に一人ひとりの手は小さいけれど、集まれば大きな手になること。地域の安心安全のために楽しむながら活動を続けることと結ばれました。

東海村に多くの仲間をお迎えし、学び合ったことを今後の活動の礎にしたいと思いました。

## 中 央

(大洗町更生保護女性会) 小野瀬 とき子

### 令和4年度中央ブロック研修会

- ・日時 11月2日(水) 13時開会
- ・場所 トヨペットスマイルホール大洗  
(大洗町民会館 大会議室)

天候にも恵まれる中、3年ぶりに中央ブロック研修会をコロナ禍が落ち着かない状況を考慮し、短縮の形をとり少人数で行い45名の参加をいただきました。



県会員研修会をふまえての研修会とさせていただき、水戸保護観察所加藤所長による講話「更生保護女性会に期待する事」で始まり、グループ討議では「活動の重点目標」について会員の皆さんから様々な意見と各地区での活動状況などを話し合いました。

まとめ発表においては、他グループの発表を熱心に聞く姿がありました。

加藤所長による指導講評において、地域においては更女の活動が大きな役割を果たしている事、そして何より会員の皆さんのが更女の活動を理解し、楽しんで活動する事が大事だとお話しいただきました。

参加者の皆さんのご協力のもと和やかに終了する事ができました。ありがとうございました。

この中央ブロック研修会が各地区の今後の活動に実りある事を願っております。



グループ討議

## 鹿 行

(潮来市更生保護女性会) 篠塚 依子

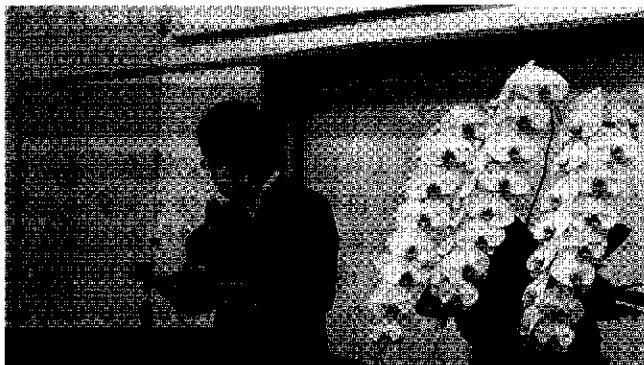
### 鹿行ブロック研修会

11月25日(金)に、鹿行ブロック研修会が開催されました。来賓として、観察所所長、市教育長、なめがた地区保護司会会长、県連盟会長、事務局長の皆様のご臨席を賜わりました。加藤所長の講話「茨城県の更生保護女性会の活動に寄せて」の中で、ほっとけない運動は、平成21年度から県内各地区で実施、平成26年に内閣府女性活躍担当大臣表彰受賞に始まり、「孤立のない地域社会をめざして」までのお話を頂きました。活動のあり方では、問題として少年の大麻や覚醒剤等薬物依存、高齢者の孤立化が増えているとのお話をしました。その対応が今後の課題になると思います。研修の終了後、75名の会員の参加でクラフトテープでアヤメの花作りを行いました。

# 研修会報告

ました。コロナ禍で、あまり人と接する機会も少なかったこともあり、皆さんで作業しながら和気あいあいの様子、所長、県連盟会長もとっても楽しそうでした。

研修会終了後、潮来市、各地区会長に確認した結果どなたもコロナ感染されていない由、大変安心しました。今回の「鹿行ブロック研修会」が実のある会であったと思います。これもひとえに皆様方のお力添えのおかげと思っております。



水戸保護観察所長講話

## 県 南

稲敷地区更生保護女性の会

大津 良子

### 県南ブロック研修会担当地区として

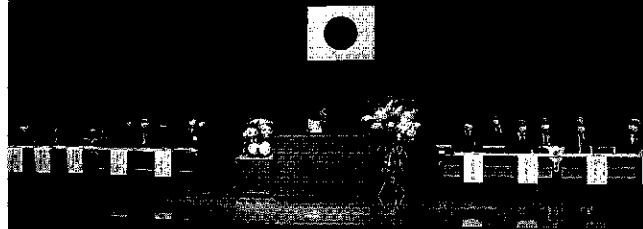
今回の県南ブロック研修会は3年ぶりの開催となりました。一時は皆様を安心してお迎え出来るかと心配もしました。来賓の皆様ご臨席のもと、保護司の皆様、行政の皆様大幅に参加人数を制限されましたが、会員の皆様が一堂に会して実施出来ました事、嬉しく感謝の気持ちでいっぱいでした。

次に県更生保護女性連盟前会長井坂たけ様より、「更生保護女性会の活動」として講話がありました。活動の歩みを振り返りこれからの活動を考えるという視点から、昭和20年代戦後の混乱期、犯罪や非行をくり返す青少年を見過ごしきれなかった事に始まったそうです。このように先輩方も大変な時に目を向けられた事のすばらしさは、何ものにも代え難い貴重な経験だったと思います。県更生保護女性会の発会は、昭和29年7月3日の事。いろいろな更女の古い歴史と活動を伺って感銘を受けました。本当に有り難うございました。

午後から研修に入りました。6人組で11班での研修でした。各班回らせて頂きました。どの班もとっても和やかで、意見も活発でずっと聞いていたいなと思わせる研修会でした。

このように皆様のあたたかい言葉に後押しされて無事終る事が出来ました。今の私の気持は「ホット」しています。御協力本当に有り難うございました。

令和4年度茨城県更生保護女性連盟 県南ブロック研修会



県南ブロック研修会開会式

## 県 西

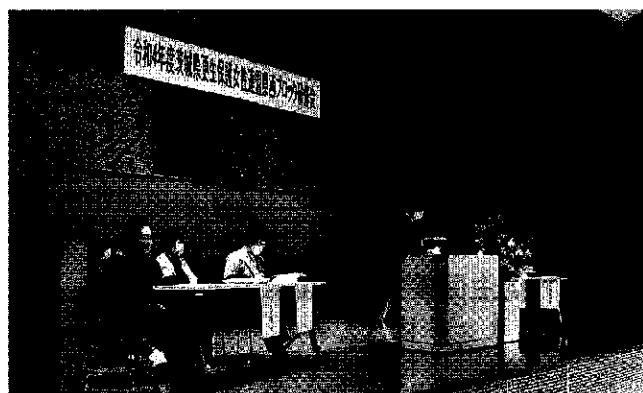
桜川市更生保護女性会

市村 香

### 令和4年度県西ブロック研修会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から2度の延期に見舞われ、令和4年10月26日、3年目にしてやっと開催することが出来ました。

更生保護女性会は、一人ひとりが人として尊敬され、誰もが心豊かに生きられる社会を目標に、女性の持つ温かさや細やかさを生かした活動をしてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、会の活動に制限と見直しが余儀なくされています。そして、各地区共通の課題は、会員の高齢化、若い方の担い手不足などあります。そのため、課題を共有し関係機関と連携しながら、会のあり方や活動方針を考えるための研修会を企画いたしました。本来なら十分な時間を取るべきところ時間を短縮し、加藤水戸保護観察所長、馬場茨城農芸学院長、海老原有光苑施設長の皆様からご講話をいただき、質疑応答と意見交換をいたしました。参加者からは、中身の濃い研修となり、大変参考になったと好評を得てほっとしているところです。これからも又、コロナ感染は第8波を迎えると予想され、私たちの会活動も形を変えて実施しなければと考えます。短い時間でしたが、今回の研修会が少しでも今後の会活動の参考になれば幸いです。



県西ブロック研修会開会式

# トピックス

## 法務大臣感謝状を受賞して

東海村更生保護女性会 中野 トキ

本年6月20日“日本更生保護女性の集い”が東京の法曹会館「高砂の間」に於いて全国各地から会員が参集し緊張感の中集いが執り行われました。法務大臣をはじめとするご来賓のご臨席の下、法務大臣感謝状の贈呈が行われ栄誉を賜り身に余る思いでいっぱいです。その後10月3日“茨城県更生保護女性連盟結成65周年のつどい”、11月3日“第61回茨城県更生保護大会”に於いてもご披露いただきました。

東海村更生保護女性会に入会して30年、県更女人事務局14年間井坂会長と水戸保護観察所の温かいご指導の下で務めることができました。事務局は楽しくて、各地区の理事さんも協力的でした。事務所の移転が2度もあり大変な時期でしたがお陰様で務める事ができました。皆様本当にありがとうございました。



## 法務大臣感謝状

中野トキ様（東海）

## 日本更生保護女性連盟会長表彰

佐川睦子様（高萩）  
大津良子様（稻敷）  
谷田部美千代様（下妻）

## 関東地方更生保護委員会委員長感謝状

平野美代子様（鉾田）  
前橋ナツエ様（常総）  
岡安君枝様（猿島）

## 関東地方更生保護女性連盟会長表彰

片岡久子様（大子）  
大内洋子様（ひたちなか）  
栗原純子様（つくばみらい）

## 第46回茨城県消費者大会

令和4年7月7日ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホールにおいて3年ぶりに開催され、茨城大学石島恵美子氏により「エシカル消費 食品ロスを考える」と題して講演があった。県内80名の会員が参加し2地区がバザーを出店した。

## ドキュメンタリー「プリズンサークル」

令和4年9月24日笠間市笠間公民館大ホールで上映された。取材許可まで6年、撮影2年。初めて日本の刑務所にカメラを入れたドキュメンタリー映画。「ぼくたちがここにいる本当の理由、みて！感じて！」を110名の会員が視聴し、10月2日京成ホテルにおいて坂上香監督の講演会が行われた。

## 前進座 水戸公演

長引くコロナ禍により国立劇場での観劇が延期されていたが、10月21日ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホールで山田洋二監修「一万石の恋」が上演された。ちょっぴり切なく可笑しい喜劇。「水戸公演は全国巡演の初日に当たり、更女の皆様の反応も温かく出演者共々元気がでました」との礼状が届きました。割安で観劇でき、地区会には還元金があります。

## 訃音

謹んでお悔やみを申し上げます。

- 谷村 芳枝 様（水戸）
- 古渡 満子 様（かすみがうら）
- 長谷川昌江 様（土浦）
- 安達 征子 様（鹿嶋）

## 編集後記

新型コロナ感染症収束の先が見えない中、不安を抱えながらも、少しずつ平常に行動できるようになってきました。茨城県更生保護女性連盟は、昭和33年10月に結成され、令和4年10月に65周年を迎えました。今までの歩みを振り返り、さらなる充実発展を図るために「結成65周年のつどい」を盛大に行うことができました。

また、従来の1泊研修も1日のみではありましたが充実した中身の濃い研修ができました。概略を掲載いたしましたので、各地区会ごとに報告会をもち、共有していただければと思います。

茨城県更生保護女性連盟

<http://ibarakikoujo.web.fc2.com/>